



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

通信. 天界 1932, 12(132): 161-161

ISSUE DATE:

1932-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161893>

RIGHT:

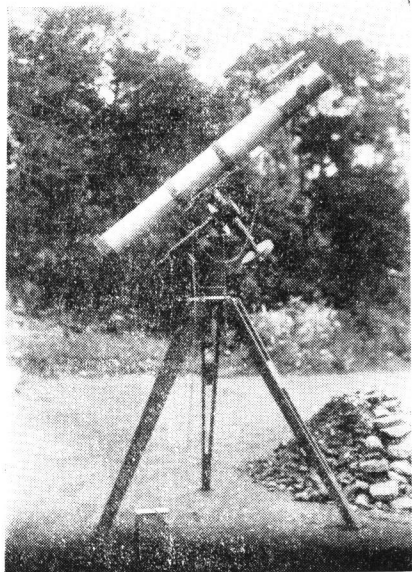
通

## 九州より

古賀和吉

信

拜呈久しく御無沙汰致しまして何とも申譯がありません先生には益々斯道の爲め御活動して居らっしゃる事は豫て承知して居ります先月は又秋の星座の話を放送になりましたので久しぶりに御面接しました様な氣で拜聴しました。



私も(中略)蔭乍ら研究を重ねて居ります近來は反射望遠鏡の製作が當地大牟田地方へ流行しまして市内に十數個の15センチ程度のものが出来ました其内一個はとても完全な赤道儀も出来ました、小生のオットウユー赤道儀を参考として改良したもので市教育會で第一等賞の賞状賞品を得ました是非天界に一度出して頂きたいと思ひます寫眞は近日中に御送り致します。

尙會員も五六名加入する事になつて居りますから近日中に申込みたいと思つて居りますボチボチ活動する事に致して居ります

(中略) 春になりましたら花山天文臺を是非見學させて頂く事が出来ると思ひます。久しぶりで上洛が出来さうに思ひます。

(中略)

百濟さんは何うして居られますか宜敷言

一月十一日

つて下さい其他の方々にも何卒宜敷。

## 大阪南支部通信 (第一信)

天文同好會大阪支部が餘りと静か過ぎるので、一つ僕等て別に支部を作つて及ばずながら同好會のために盡力しやうではないか、と決心をした私達若人の集ひ“天文研究會”會員中大阪在住の者は、顧問を御ねがひしてみる中村要先生を花山に間ひ相談の上“大阪南支部”なるものを作る事に一決した。山本會長の御許しも受けさて支部設立はしたものゝ何とかして第一回集合をやらなくてはと、先づ中村要先生の御足勞を願つて南支部の第一回座談會を催しました。初めの事とて會する者わづかに八名しかし愉快に語り合ひました。僭越ながら當日の有様を一寸御知らせしておきます。一月七日、午後五時二十分中村先生來着さる。御食事中來集會員一同は屋上觀測室の11cm反射望遠鏡で天體觀測、其中に雲も出たので觀測を中止し、階上で座談會に移る、此時同好會評議員奥村幸二郎氏も來席され一同卓を圍んで種々の天文談、雜談に花が咲く、中村氏には種々の質問が飛ぶ……宇宙の話、緯度、小遊星、彗星、遊星、恒星、反射鏡、天體寫眞の話等々……話はそれからそれへと續く。談半ばにして會員中の御厚意にて記念撮影初めて使ふ閃光電球に二度の失敗をやり結局マグネシウムでケリがつく、其後も話は益々はびむ……閉會にしたのは21<sup>h</sup> 30<sup>m</sup>。集會者八名だが今後の會合に段々と人員を増し、大阪在住の同好會々員に南支部あるを知らしめん事を望んでおります、幹事は若冠の身を以て無能力ながら私がやつております、最後に書添へますが、當南支部は若人の天文愛好者の集ひたる事を附記しておきます。そして當支部は當分、大阪市南區南炭屋町31伊達英太郎方に置きます。

(伊達)

## 天文同好會本部より

**事務室より** 會計三宅義夫氏が都合により辭職されましたので、其後任を八木敬一君に御願する事に致しました。今後も何分よろしく御指導下さい。

三月號に會員名簿を附録として添へましたが、大分急いで作りましたので二三誤りがありましたから次に訂正致します。尙御心付の點が御庭いましてら何卒御知らせ下さいませ様御願致します。今後毎月、新入會員、轉居等を御報告致しますから、それによつて御訂正の上、名簿を精々御活用下さい。

次の方々は當方の誤で全く名簿から漏れました。御詫び申します。

田 中 宗 愛            京都帝國大學理學部生物化學教室  
三 雲 千 代 夫        同                    同                    地質礦物學教室

滿州の島北三晃氏の御住所は奉天中學校と御訂正下さい。

京都府の能勢繁生氏は佐野英生と改名されました。

### 新入會員(名簿作成後三月九日まで)

舟 茂 定 雄	北海道上川郡	永山農事試験場
小 原 敏 雄	北海道旭川市	竹村病院
佐々木 明	〃	旭川中學校
西 垣 朝 夫	〃	旭川廳立高等女學校
小 野 寺 太 郎	〃	旭川市立北部高等女學校
大 橋 章 男	京都市中京區六角通り堺町西入	

此頃頻りに會員諸君から、激勵の御手紙や、御注文やら、時には御不満まで御聞かせ下さつて誠に有り難う存じます。二月號に就て鳥取の松田氏から次の様な御通信を頂きました。少々痛い事もあります。(一) 今月號より面目一新の觀あり慶賀の至りに存じます。(二) 通俗講座は若返り法としては是非御繼續願ひます。(三) 談話會記事は最近のものをもつと詳細に御開放願ひます。(四) 天界新知識は觀測帳と共に本誌を生ける雑誌と致します。

(五) 辭典は今迄の様な幽靈で無い事を望みます、別紙がよいです。(六) 二月號にはまとまつた論文が缺けて居るのが物足りないです。(七) 花山子先生同情致します、憂鬱にならない様に。